

# 防災教育への取り組みについて

和田島小学校

## はじめに

本年度、和田島小学校は、防災教育推進モデル校の指定を受けました。昭和21年の南海地震から63年間の経ち、その記憶も薄れつつあります。この機会に児童・保護者の防災意識の現状を把握して防災教育を実施し、防災意識の高揚を図る必要があると考えました。

## 本校の実践について

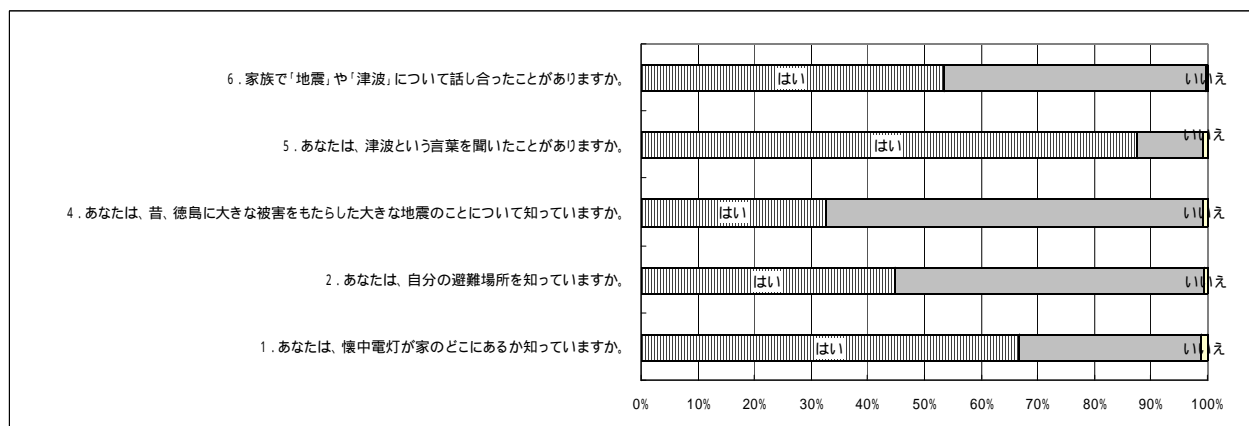
### 1. 本校の実態について

和田島小学校区は、紀伊水道の南に位置し瀬戸内側に回り込むような形状の半島上にあります。太平洋側には、4m程度の防波堤と、海上には、波消しブロックが点在しています。防災教育を始めるにあたり、校内に参考になるものはないかと探してみました。すると職員玄関に「和田島小学校安全マップ」が掲示されていました。マップを見ると、1「街灯なし」「人通り少なし」などという生活安全上の留意事項、2「大雨時、冠水」等というような登下校時の経路についての留意事項の2観点

がマップ上に記載されていました。そこで、このマップを再点検してみることに始めました。特に「大雨時、冠水」の項目が記入された箇所について校区点検を行いました。その結果、校区には堤防上を走る道、田畑の中を走る道、住宅地の中にある生活道路等、比較的細い道路が多いことに気づきました。実際に車で走ってみると校区の中に、高台に近いような場所と土地が低い場所があることに気づきました。

### 2. 意識調査の実施

児童に「地震・津波への意識調査」を6月はじめに、児童308名に実施しました。その結果をグラフ化して検証しました。



上のグラフを見て、特に気になるのは、問4「あなたは、昔、徳島に大きな被害をもたらした大きな地震のことで知っていますか。」で「はい」と回答した児童が32%にとどまっていることです。

アンケートから、1「昭和21年に起きた南海地震で、和田島地域では、どんな被害があったか知ること」、2「自分の避難場所について知ること」の必要性を感じました。同時に、問6で「家庭で『地震』や『津波』について話し合ったことがありますか」で、半数近い児童が「いいえ」と回答していることから、3「児童に対してだけでなく、保護者の方に防災についての情報を提供する必要があります。」と感じました。そのために、実際に避難訓練を行うとともに、全体会を開催し情報を提供すれば効果的に防災について考えてもらう場づくりとなると考えました。アンケート結果も踏まえ、次のような年間計画をたてました。

### 3. 年間計画

月	学習（校内）	他機関等との協力
4月	・教職員への事業内容の周知	・小松島市教育委員会において「防災教育担当者会」開催。（議題：予算要望等、事務手続き等）
5月	・県への予算要望書の提出。 ・大まかな年間計画、各学年の防災教育への取り組みの検討。	
6月	・県による「家具等落下防止」処置。ロッカー、テレビ等の固定。	・小松島市教育委員会において「防災教育推進打ち合わせ会」開催。（議題：3校合同防災避難訓練について）各校、管理職、担当者参加
7月	・集会委員会が地域のお年寄りの方を訪問し、南海地震について聞き取りを行う。（全体への報告会は、9月を予定。） ・4年生全員が小松島市消防本部を見学。署員から説明を受ける。 ・県による「耐震調査」。 ・8月23日（日）を午前中の登校日として、自宅より和田島小学校への防災避難訓練を行う旨の文書を保護者に発送。	・坂野小学校で行われた「防災シンポジウム」に参加。 ・坂野小学校において、担当者会。議題「3校合同避難訓練について」 ・小松島市教育委員会において「学校防災教育打合せ」（参加者：市防災安全課、坂野・和田島地区自主防災会長、市教委学校課長、主査、各校管理職・担当者）議題：3校合同防災避難訓練の日取りの決定等
8月	・震源地等を南海地震と同じに想定、発生時刻を8時に設定。8時40分をめぐりに徒歩で和田島小学校への避難訓練を行う。避難後、体育館で全体会を行う。（参加者：児童、保護者、教職員、校区各地域自主防災会長、市防災安全課所員）	・坂野小学校、坂野中学校も、日時時刻設定等と同じに設定して、防災避難訓練等を実施。
9月	・和田島小学校区町民大運動会の高学年個人種目「備えあれば憂いなし」で、保護者、地域の方に防災意識の啓発を図る。	
10月	・防災すごろく「グラグラタウン」を学級ごとに行い、楽しみながら、防災意識の高揚を図った。 ・北島町の防災センターでの体験学習。（3～5年）	
11月 12月	・各学年で、「生活科」「総合的な学習の時間」を利用して、防災について学習した。	
1月	・集会委員会が、全校集会で、南海地震について集会委員会がお年寄りから聞き取ったことを発表したり、クイズ形式でゲームをしたりして、防災意識の高揚を図った。	

### 4. 親子防災避難訓練の実施について

#### （1）親子防災避難訓練の実施計画について

夏休み中の8月23日の日曜日に親子防災避難訓練を実施しました。想定は、「午前8時に、和歌山県潮岬沖80km、深さ25kmを震源としたマグニチュード8.0の地震が発生、津波のおそれがあるため、自宅より和田島小学校へ避難する。」です。また、当日は、原則として8時40分をめぐりに、親子で徒歩で避難する。（津波到達までの時間を40分と想定しているため）その際に、避難経路や危険箇所の確認をしながら登校するよう呼びかけました。

## (2) 全体会について

意識調査の結果も考慮して、親子防災避難訓練では次のような内容について行うことにしました。1 「地域防災マップ」「南海地震時の浸水状況」「一時的緊急避難場所」「収容避難場所」を記載した校区の地図を使って児童・保護者に対して説明し、「南海地震時の各地域の浸水状況」「緊急一時避難場所」「収容避難場所」について理解してもらうこと。2 地域の自主防災会の方の紹介を行い、地域にそうした組織が存在することを知ってもらうこと。3 ライフラインの切断を想定しての、アマチュア無線による災害通信訓練の実演をすること。4 体育館ステージ上で、児童数名・教員数名による仮設トイレの設営と小松島市防災安全課の所員に説明してもらうこと。5 防災グッズの展示をすること。6 ミネラルウォーター、乾パンの試飲試食をすること。7 和田島地域の「地域防災マップ」を配布すること。

## (3) 親子防災避難訓練を行っての児童・保護者の感想

### 児童の感想

防災訓練に参加して、ハザードマップでは、自分の地域だけでなく、他の地域の避難場所も分かるので、かけた時に災害が起きても避難できるなと思いました。無線は、ゲータイが使えるい時でも使えないので、災害時には必要だと分かりました。ぼくの家ではあまり災害時にそなえていないので、今日分かったことをやく立てながらそなえたいです。

六年 各組一

### 保護者の感想

(防災訓練に参加して)お話しを聞いております。お母様の避難場所などを説明していただき、分かりやすかったですと思います。仮設トイレの設営も児童も参加しての設営だったので体験により良かったのではないかと思います。アマチュア無線は、少し内容が聞きたり(聞こえたり)聞こえたりです。全体的にまとまっていたと思います。体育館に提示してあった緊急用の避難袋も中味色も参考になりました。少ぼつ もの時に備えて準備したいことと思っております。ありがとうございました。

## 5. その他の取り組みについて

### (1) 県立防災センターへの遠足

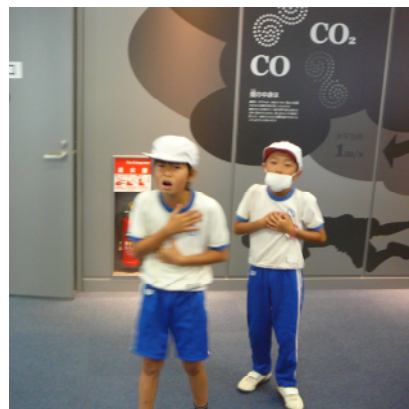
3年生から5年生は10月30日、遠足で、北島町の県立防災センターを訪問し、所員から「防災ガイダンス」を受けた後、「地震体験」「消火体験」「煙体験」「暴風体験」に参加しました。



(地震体験)



(消火体験)



(煙体験)

これまでに避難訓練は行いましたが、実際の「災害」や「災害への対処」について児童の理解が不十分なのではないかと教職員間で話し合っていました。県立防災センターでの活動により疑似体験とはいえ、実際に「地震の揺れ」や「消火器による消火活動」や「煙に巻かれた時の苦しさ」を体験することができ、有意義な体験ができたと考えています。

## (2) 南海地震の体験者からの聞き取り

集会委員会の児童は、7月に地元のお年寄りのご自宅を訪問し、南海地震について体験談をうかがいました。「横ゆれが長く続いたこと」、「1回目の津波の後、水が引き、いつもは見えない海の底が見えていたこと」、また、気をつけることとして、「家具が倒れてくること」や、「火災に気をつけること」、「ラジオなどで正確な情報を知ることの大切さ」等を、教えてもらいました。聞き取ったことは、1月に防災集会を開催し、防災について調べたことから作ったクイズなどととも、全校児童に報告されました。

## . おわりに

本年度、防災教育推進モデル校の指定を受け、上記のような取り組みをしてきました。児童の感想や保護者の感想の紹介をしましたが、われわれ教職員も防災への意識が高まったと感じています。また、夏休み中には、関係機関にテレビや本棚等が倒れないように固定してもらいました。また、校区を防災の観点から見直し「地域防災マップ」を各家庭に配布しました。1年間を通して、防災教育への取り組みを行ってきましたが、まだまだ十分な取り組みとはいえないと考えています。今後も、防災教育の重要性を全教職員が十分認識し、関係機関と連携しながら、取り組みを進めていきたいと考えています。